

読売 1/13



旬の人

玉名市出身の
駐アンゴラ大使

沢田 洋典さん 63

「不思議なご縁を感じます」。夏に開かれる東京五輪に向け、玉名市で事前キャンプを行うアフリカのアンゴラとの橋渡し役を務める。「ご縁」の言葉には、出身地への思いも込められている。

県立玉名高から東京外国語大に進み、ポルトガル語を学んだ。1980年に外務省入省。ブラジル大使館勤務などを経て、2016

スポーツ交流 橋渡し

年から駐アンゴラ大使を務めている。相手国政府への手土産には、国の伝統的工芸品に選定されている肥後象がんを施したボールペンと万年筆を選んだ。「地方と海外との交流を後押しするために古里の物を、と考えた」からだ。

昨年7月には、アンゴラを訪れた蔵原隆浩・玉名市長と同国オリピック委員会をつなぎ、東京五輪に出場する女子ハンドボールチームの事前キャンプに関する覚書の締結にこぎ着けた。

12月、県内で開かれた女子ハン



ドボール世界選手権大会に合わせ、帰郷した。アンゴラの試合を観戦したほか、母校で後輩たちに講演した。「外交官になって苦労したことは何ですか」という生徒の問いかけに、「一生懸命に仕事をすするうちに苦労は忘れてしまふ。みんなも海外のニュースや動きに関心を持って」と呼びかけた。経済の立て直しが進むアンゴラ。「国民の日本に対する期待は大きい。玉名市民との交流をこれからも応援していきたい」と語った。

(田上賢祐)